

## 2020年の出版市場を発表

### 紙+電子は4.8%増の1兆6,168億円、コミックの拡大で2年連続のプラス

出版業界の調査・研究機関である（公社）全国出版協会・出版科学研究所（所在地：東京都新宿区、理事長：浅野純次）は2020年（1～12月期累計）の出版市場規模を『出版月報』1月号（1月25日発売）で発表しました。

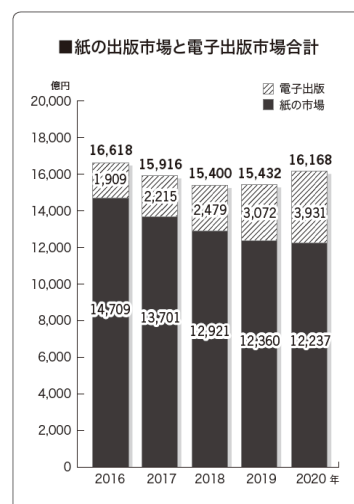
紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、前年比4.8%増の1兆6,168億円のプラス成長となりました。紙の出版市場が同1.0%減と小幅なマイナスにとどまり、電子出版市場が同28.0%増と大きく伸ばしたことで、2年連続のプラスとなりました。出版市場全体における電子出版の占有率は、24.3%。前年の19.9%から4.4%上昇し、2割超の規模にまで拡大しています。

#### □ 紙市場は1.0%減で健闘、コロナ禍と「鬼滅の刃」ブームが大きく影響

2020年の紙の出版物（書籍・雑誌合計）の推定販売金額は前年比1.0%減の1兆2,237億円。内訳は、書籍が同0.9%減の6,661億円、雑誌が同1.1%減の5,576億円。いずれも減少幅が非常に小さく、健闘しました。その要因は、コロナ禍での生活様式の大きな変化（外出自粛による在宅時間の増加、娯楽の制限など）で読書の需要が高まったことと、コミックス『鬼滅の刃』（集英社）の爆発的ヒットが挙げられます。『鬼滅の刃』はコミックスのみならず、書籍のノベライズ作品や関連付録を添付した雑誌など、その販売効果が出版物全体に波及し、20年の市場を大きく底上げしました。

書籍は、3月2日から始まった学校一斉休校を機に学参、児童書が大幅に伸び、年間を通して好調に推移しました。このほか文芸書、ビジネス書、コンピュータ書、ゲーム攻略本など前年を上回ったジャンルが目立ちます。

雑誌はコミックス（単行本）が約24%増の大幅増となり、月刊誌（コミックス、ムック含む）が同0.5%増と1997年以来の前年超えとなりました。週刊誌は同8.5%減と苦戦。月刊誌のうち、定期誌は3～6月には発売中止・延期が相次ぎ、メジャー誌の休刊も続出し、約9%減。ムックも約14%減と低調でした。コミックスは『鬼滅の刃』の桁違いの伸びに加え、そのほかの作品もヒットし、2割超の伸びを示しました。



#### □ 電子出版市場は大幅増、コミックのシェアは約9割に

2020年の電子出版市場は前年比28.0%増の3,931億円と、大幅な伸びを示しました。内訳は、電子コミックが同31.9%増の3,420億円、電子書籍が同14.9%増の401億円、電子雑誌が同15.4%減の110億円。コミック、書籍の伸びは、コロナ禍の「巣ごもり需要」でユーザーが増加し、客単価も上昇したことが要因。

コミックは『鬼滅の刃』の大ヒットと「異世界」系作品や電子書籍ストアオリジナル作品の牽引で、大幅増。電子市場における占有は87.0%（前年より2.6%増）となりました。

書籍は、東野圭吾、湊かなえなど20年に人気作家が電子化を続々と解禁したこともあり、順調に成長しています。雑誌はシェアの大きいNTTドコモの読み放題サービス「dマガジン」の会員数が春先に下げ止まったものの、夏以降再び減少し、3年連続で二桁減となりました。

※電子出版市場規模は、読者が支払った金額を推計したもの。広告収入は含まない。雑誌には定額制読み放題サービスを含む。

<本件に関するお問い合わせ> ※本レポートの詳細は、『出版月報』2020年1月号（頒価2,200円）に掲載しています。

公益社団法人 全国出版協会・出版科学研究所 担当：久保、水野

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 TEL 03-3269-1379 FAX 03-3266-1855 <https://www.ajpea.or.jp>